高知]工業高等	等專門学校	開講年度	令和05年	度 (2023年	度)	授業科目	特別研究(1)
科目基礎	楚情報							
科目番号		6212			科目区	分	専門 / 必	·修
授業形態		演習				種別と単位	立数 学修単位	: 4
開設学科	77-			対象学		専1		
開設期		通年				数	2	
教科書/教					ļ/= -/·		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
担当教員	.,,,		台,吉田 正伸,奥村 勇		.三嶋 尚史.立	 崇之,=	 喬 修	
到達目標	<u> </u>	11.300 137		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	/	11 200-1-1	1-5 1-2	
1. 必要だ 2. 研究は 3. 研究は 4. 口頭を	な期間で研 の背景が正 目的を達成 発表に発表	しく理解され するために,	lており,課題に関連 手段・手法を考えて	重する文献調査 こ問題解決に耳	査もなされてい 取り組み,成界	ヽて,目的カ ルが得られる	が明確に記述され る。	場合はチームワークが取れている。 1ている。)やすく伝え理解を得ることができ
ルーブリ	Jック							
			理想的な到達レ	ベルの目安	標進的	な到達レヘ		未到達レベルの目安
到達目標1			必要なります。 われ、困難を乗 力がなされ、ま る共同研究の場 が適切に取れて	切な研究活動 り越える十分 たグループに 合はチームワ	が行 必要な な努 困難を おけ またグ	期間で研究 乗り越える ループによ	がいる 記活動が行われ、 5努力がなされ、 いける共同研究の -クが取れている	必要な期間で研究活動が行われず 、困難を乗り越える努力が見られ ない。またグループにおける共同
到達目標2			研究の背景が正り、課題に関連 査もなされてい が適切に引用さ 明確に記述され	する広汎な文 て, 既往の研 れている。目 ている。	献調 切り, の課 的も れてい	題に関連すいて、目的	ノく理解されてお 「る文献調査もな 」が明確に記述さ	らす、課題に関連する文献調査も
到達目標3			研究目的を達成が創意・工夫と 決に取り組み, れる。	努力により問 十分な成果が	題解・手法み、成	を考えて問実が得られ		引 得られているものの, 手段・手法 は必ずしも適切でない。
到達目標4			口頭発表に発表 ョン)において すい資料等をま , わかりやすく ることができ , えることができ	,明瞭でわか とめることが 伝え十分理解 質問にも的確	りや でき 料等を を得 りやす	において, まとめるこ く伝え理解	(プレゼンテーシ わかりやすく資 ことができ,わか なを得ることができることができる	(ヨン) において, わかりやすい資料等をまとめることができす, 十分理解を得ることができなかった
学科の到	到達目標」	真目との関]係		•			•
基準1(2)(1(2)(h)		力 基準1(2)	(d)(3) 基準1(2)の知	口識・能力 基	準1(2)(e) 基	隼1(2)の知	識・能力 基準1	(2)(g) 基準1(2)の知識・能力 基準
教育方法	去等							
概要		めるとと に分野の	'もに口頭発表を行し	ヽ、プレゼンラ ≦導を受ける複	テーション能力 复数教員指導体	」を高めさt 制で実施す	せる。研究指導に する。電気電子コ	また、その研究結果を自ら論文にまと こついては、専門分野の指導教員の他 「学・機械工学・土木工学・応用化学 式】
授業の進む	め方・方法	・指導教 データの	対員を選ぶ。指導教員)収集・整理・考察・ 他のもとで研究を進め	ほより研究する まとめを行い	テーマおよび研 ハ、中間発表用	f究内容を排 の論文要旨	是示し、計画をご 旨の作成・提出と	系教員の研究をよく調べ、研究テーマ 立て、実施する。研究の進捗に伴い、 ≤中間発表準備・発表を行う。 ⊃いて指導教員等が確認し、アドバイ
注意点		技術者と的に「台北記述力では自主	洽」判定を行う。川	レーブリックで こマネジメント も力である。	で評価する能力 ト能力、発表で	は、論文では論理的な	ではデザイン能力 い記述力、発表力	リックで到達レベルを評価して、総合 ロ、専門知識とその応用能力、論理的 ロとコミュニケーション力、研究日誌
	属性・履作 ティブラーニ	<u> 修上の区分</u> ニング) □ ICT 利用		□遠	隔授業対応		□ 実務経験のある教員による授業
────	<u> </u>							
授業計画	<u> </u>	週	哲学 市 ②			1.	国プレの可も口	
	+	<u> </u>	授業内容	<u>-</u> >+ τπ-⇔-⊒ -	~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~~		週ごとの到達目標	
		1週	特別研究:研究のフ					に研究計画を立てることができる。
		2週	特別研究:研究テ-					に研究計画を立てることができる。
		3週	特別研究:研究テ-	-マの調査、語	計画、実施、	察等	課題解決のため	こ研究計画を立てることができる。
		4週	特別研究:研究テ-	-マの調査、詞	計画、実施、表	持察等	課題解決のため	に研究計画を立てることができる。
	1stQ	5週	特別研究:研究テ-	-マの調査、	計画、実施、表	察等	課題解決のため	に研究計画を立てることができる。
		6週	特別研究:研究テ-		計画、実施、	察等	課題解決のため	
前期								にデータを分析して論理的に説明でき
		7週	特別研究:研究テ-	- くの調査、語	計画、美施、著			
		7 년					る。	
		8週	特別研究:研究テ-	-マの調査、語	計画、実施、表		課題解決のため る。	こデータを分析して論理的に説明でき
	2ndQ		特別研究:研究テ-特別研究:研究テ-			考察等 考察等	課題解決のため る。 課題解決のため る。	にデータを分析して論理的に説明でき にデータを分析して論理的に説明でき にデータを分析して論理的に説明でき

		11週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 課題解決のためにデータを分析して論理的に説明できる。
		12週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 課題解決のためにデータを分析して論理的に説明できる。
		13週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 課題解決のためにデータを分析して論理的に説明できる。
		14週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 課題解決のためにデータを分析して論理的に説明できる。
		15週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 課題解決のためにデータを分析して論理的に説明できる。
		16週	
		1週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・ 検証できる。
		2週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
		3週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
	3rdQ	4週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
	SidQ	5週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
		6週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
		7週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
後期		8週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
	4thQ	9週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
		10週	特別研究:研究テーマの調査、計画、実施、考察等 研究で得られた結果を整理し,文献等を参考に考察・検証できる。
		11週	特別研究:中間発表会の予稿の作成、発表準備、発表 発表(プレゼンテーション)において,わかりやすく 資料等をまとめることができる。
		12週	特別研究:中間発表会の予稿の作成、発表準備、発表 発表(プレゼンテーション)において,わかりやすく 資料等をまとめることができる。
		13週	特別研究:中間発表会の予稿の作成、発表準備、発表 発表(プレゼンテーション)において,わかりやすく 資料等をまとめることができる。
		14週	特別研究:中間発表会の予稿の作成、発表準備、発表 資料等をまとめることができる。
		15週	特別研究:中間発表会の予稿の作成、発表準備、発表 発表 (プレゼンテーション) において, わかりやすく 資料等をまとめることができる。
		16週	
l — —" II -	77411-	+ - = / /	の学羽市家を到達中博

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
	汎用的技能	汎用的技能	汎用的技能	日本語と特定の外国語の文章を読み、その内容を把握できる。	4	
				他者とコミュニケーションをとるために日本語や特定の外国語で 正しい文章を記述できる。	4	
				他者が話す日本語や特定の外国語の内容を把握できる。	4	
				日本語や特定の外国語で、会話の目標を理解して会話を成立させることができる。	4	
				円滑なコミュニケーションのために図表を用意できる。	4	
				円滑なコミュニケーションのための態度をとることができる(相 づち、繰り返し、ボディーランゲージなど)。	4	
				書籍、インターネット、アンケート等により必要な情報を適切に 収集することができる。	4	
				収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。	4	
分野横断的				収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要が あることを知っている。	4	
能力				情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について 自己責任が発生することを知っている。	4	
				情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。	4	
				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。	4	
				あるべき姿と現状との差異(課題)を認識するための情報収集ができる	4	
				複数の情報を整理・構造化できる。	4	
				特性要因図、樹形図、ロジックツリーなど課題発見・現状分析の ために効果的な図や表を用いることができる。	4	
				課題の解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えなければならないことを知っている。	4	
				グループワーク、ワークショップ等による課題解決への論理的・ 合理的な思考方法としてブレインストーミングやKJ法、PCM法等 の発想法、計画立案手法など任意の方法を用いることができる。	4	

				どのような過程で終	詰論を導いたか思考の過程を他者 (こ説明できる	4	
				適切な範囲やレベノ	 レで解決策を提案できる。		4	
				事実をもとに論理が	や考察を展開できる。		4	
				結論への過程の論理性を言葉、文章、図表などを用いて表現でき る。			4	
	性(人間力)	態度・志向 性	態度・志向性	自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。			4	
				目標の実現に向けて計画ができる。			4	
				目標の実現に向けて	て自らを律して行動できる。		4	
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。			4	
		総合的な学 習経験と創 造的思考力		工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。			4	
			ジ 総合的な学 別 習経験と創 」 造的思考力	公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点 から課題解決のために配慮すべきことを認識している。			4	
				要求に適合したシステム、構成要素、工程等の設計に取り組むことができる。			4	
				課題や要求に対する設計解を提示するための一連のプロセス(課題認識・構想・設計・製作・評価など)を実践できる。			4	
				提案する設計解が要求を満たすものであるか評価しなければなら ないことを把握している。			4	
				経済的、環境的、社 続可能性等に配慮し	4			
評価割合								
	論文				発表合計			
総合評価割合	総合評価割合 50				50	100		
基礎的能力	基礎的能力 20				20 40			
専門的能力	専門的能力 20				20 40			
分野横断的能	分野横断的能力				10 20			